
2019年 3 月期 通期

決算説明資料

2019年 5 月 9 日



ユナイテッド株式会社
(東証マザーズ：2497)



ビジョン

日本を代表するインターネット企業になる



ミッション

挑戦の連続によりあたらしい価値を創り出し、
社会に貢献する



ユナイテッドの事業構成について

アドテクノロジー事業



ゲーム事業



コンテンツ事業



インベストメント事業



その他事業



注 2019年3月期第1四半期より「ゲーム」「コンテンツ」セグメント区分変更

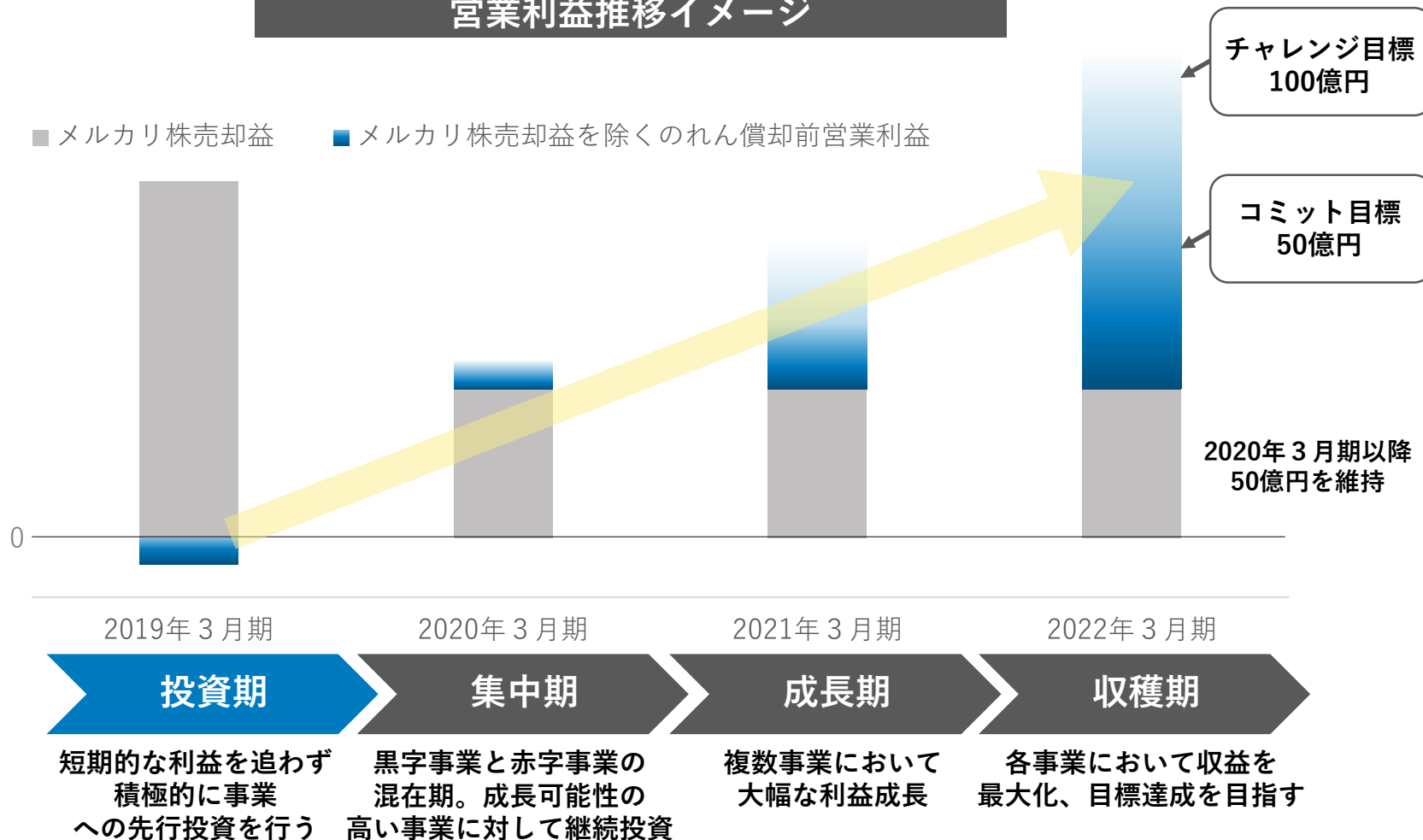
定量目標

2022年3月期 のれん償却前営業利益
チャレンジ目標 100億円
コミット目標 50億円
(いずれもメルカリ株式の売却益を除く)



当期は、2022年3月期中期経営計画最終年度における営業利益目標額の達成に向けた「投資期」と位置付け、成長の見込める事業に積極的な投資を実施

営業利益推移イメージ





2019年3月期 通期決算概要

本資料に記載されたすべての意見や予測、見通しなどは資料作成時点における入手可能な情報に基づいた弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。また様々な要因の変化により、実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることを、ご承知おきください。なお、本資料に記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

連結売上高・営業利益ともに過去最高を更新
前期比、売上高+91%、営業利益+573%の増収増益

連結業績

売上高 : 27,580百万円 (前期比+91%)
営業利益 : 11,084百万円 (前期比+573%)
当期純利益 : 7,008百万円 (前期比+725%)

アドテクノロジー
事業

売上高 : 6,427百万円 (前期比△17%)
営業利益 : 48百万円 (前期比△92%)

ゲーム
事業

売上高 : 2,653百万円 (前期比+49%)
営業利益 : △629百万円 (前期比△1,114百万円)

コンテンツ
事業

売上高 : 4,693百万円 (前期比+17%)
営業利益 : △328百万円 (前期比△948百万円)

インベストメント
事業

売上高 : 13,886百万円 (前期比+1,358%)
営業利益 : 13,487百万円 (前期比+1,510%)

その他事業

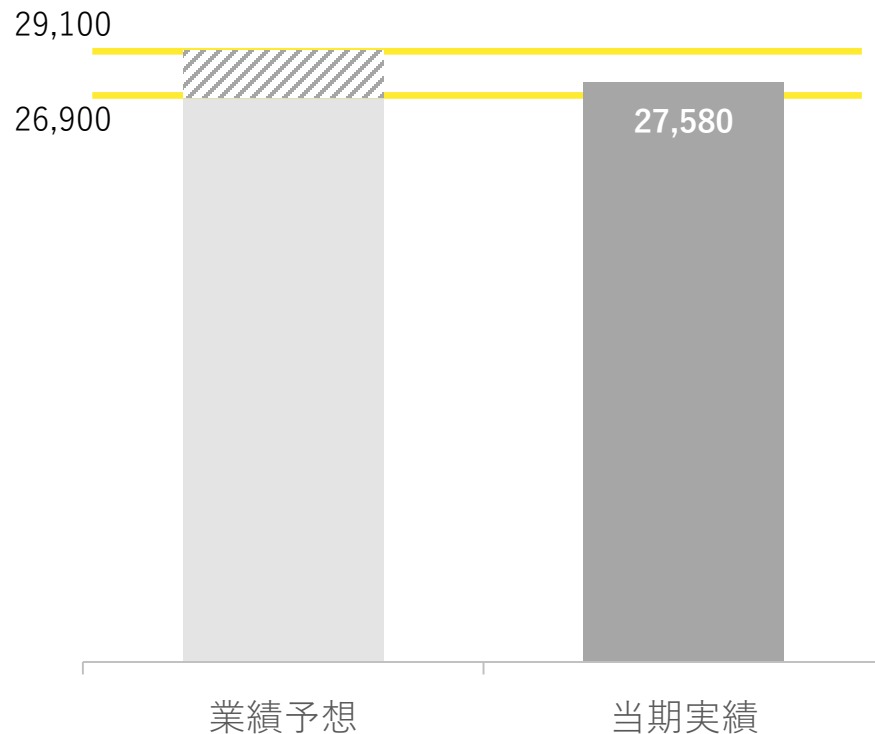
売上高 : -百万円 (前期比 -百万円)
営業利益 : △285百万円 (前期比△212百万円)

連結売上高・営業利益ともに過去最高となり、連結売上高は通期業績予想[※]の範囲内、営業利益は業績予想を超え着地

※ 通期業績予想：2018年10月31日にレンジで発表した通期業績予想

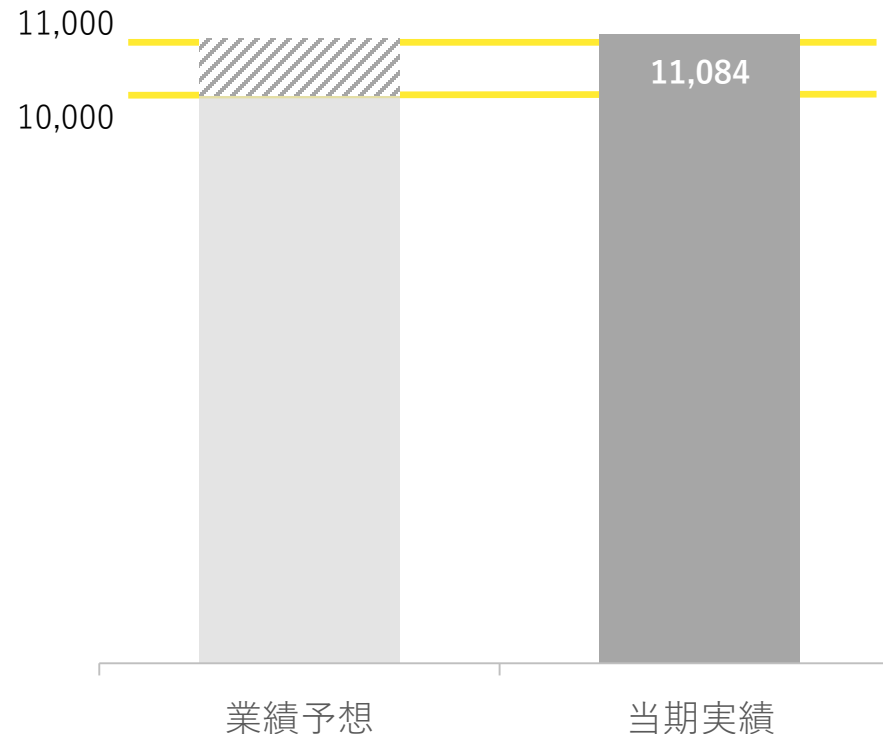
売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)



通期業績 業績予想との比較 セグメント別 (1/2)

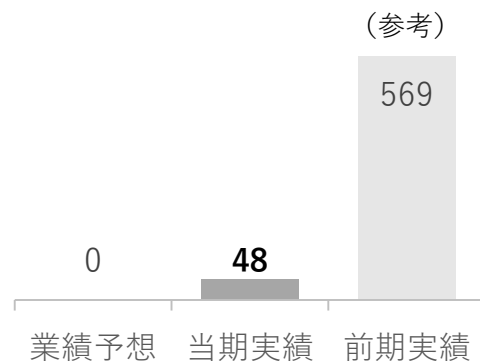
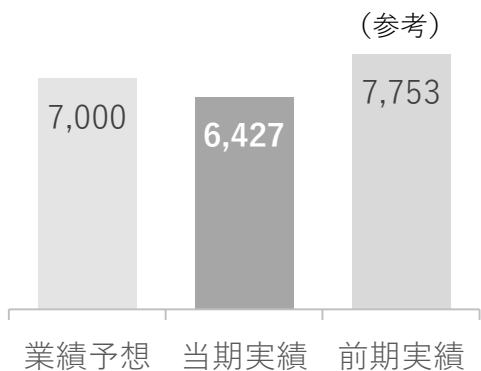
注 図中の数値は業績予想下限との比較

売上高

営業利益

(単位：百万円)

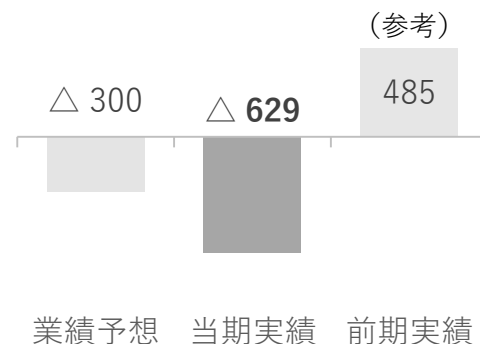
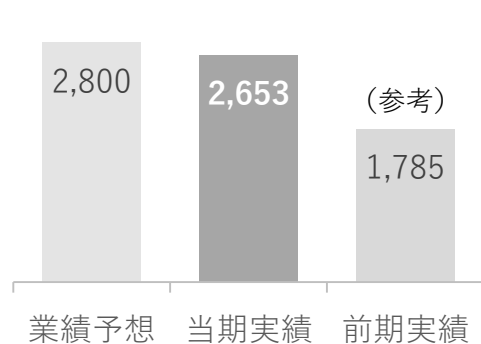
アドテク



ウェブ広告領域は停滞するも、
アプリ広告領域が成長

(参考)
アプリ広告領域：「ADeals」 「VidSpot」
ウェブ広告領域：「adstir」 「Bypass」 「HaiNa」

ゲーム



既存タイトルは堅調に推移するも、
新規タイトルで苦戦

通期業績 業績予想との比較 セグメント別 (2/2)

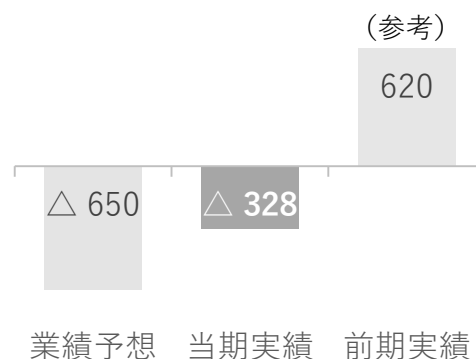
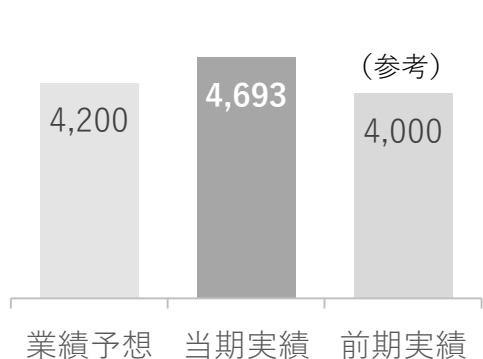
注 図中の数値は業績予想下限との比較

売上高

営業利益

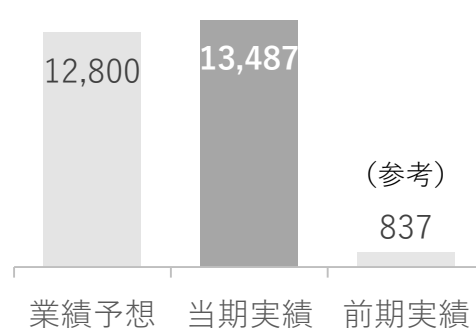
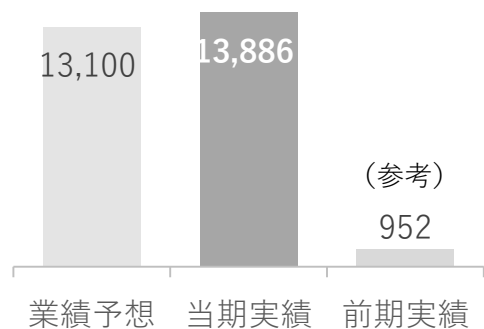
(単位：百万円)

コンテンツ



成長期待事業で売上高が伸長するも、
営業利益は外部環境変化の影響も
あり苦戦

インベス ト メント



主に(株)メルカリ上場に伴う株式売却
が大きく貢献

通期連結損益計算書

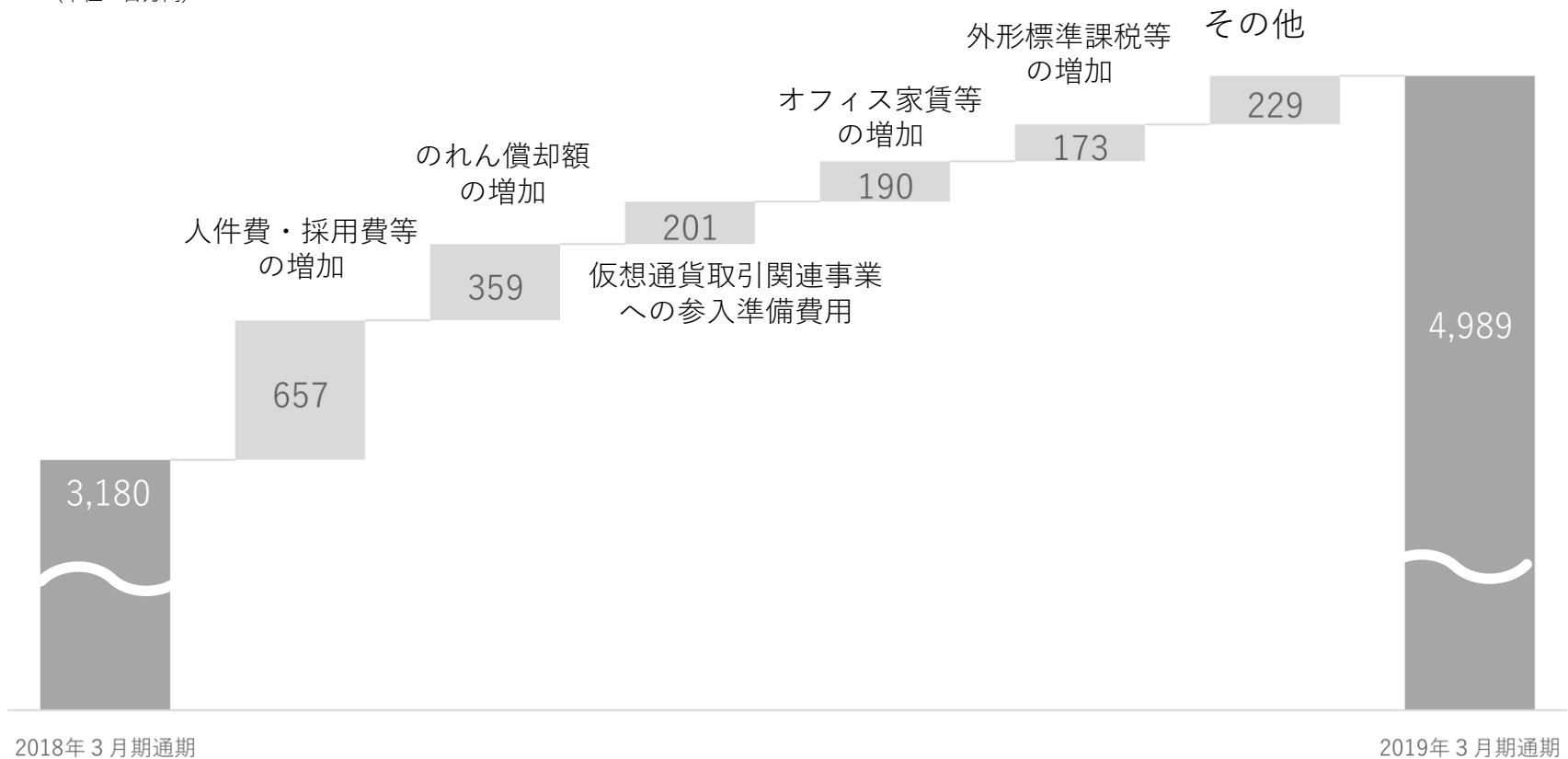
仮想通貨取引関連事業への参入準備の中止（△411百万円）、
オフィス拡張に伴う固定資産除却（△134百万円）等の特別損益（△710百万円）計上
により、当期純利益は7,008百万円（前期比+725%）

	2019年3月期 通期累計	2018年3月期 通期累計	前期比
(単位：百万円)			
売上高	27,580	14,444	+91%
売上総利益	16,074	4,829	+233%
販売費及び一般管理費	4,989	3,180	+57%
営業利益	11,084	1,648	+573%
経常利益	11,058	1,626	+580%
特別損益	△ 710	△ 4	△ 706
投資有価証券評価損	△ 106	△ 4	△ 102
事業整理損（仮想通貨取引関連事業）	△ 411	-	△ 411
オフィス拡張費用	△ 134	-	△ 134
税金費用等	△ 3,339	△ 773	△ 2,566
親会社株主に帰属する当期純利益	7,008	849	+725%
一株当たり当期純利益（円）	304	37	+724%

通期連結販売費及び一般管理費の比較

人件費・採用費等の増加（前期比+657百万円）、
(株)ライフオート等のグループ化に伴うのれん償却額の増加（同+359百万円）

（単位：百万円）



当期末連結貸借対照表

投資先株式の時価評価に伴う営業投資有価証券の増加※(前期末比+36,196百万円)等により、総資産は前期末比で+44,596百万円

※ 投資先株式の時価評価による影響：流動資産（営業投資有価証券）、固定負債（繰延税金負債）、純資産（その他有価証券評価差額金）がそれぞれ増減

(単位：百万円)	当期末 (2019年3月末)	前期末 (2018年3月末)	前四半期末 (2018年12月末)	増減額	
				前期末比	前四半期末比
流動資産	51,204	10,591	36,154	+40,612	+15,049
現預金	8,822	5,576	9,599	+3,245	△ 777
営業投資有価証券	39,190	2,994	23,505	+36,196	+15,685
固定資産	6,026	2,042	6,393	+3,983	△ 367
のれん	4,125	938	4,389	+3,187	△ 263
資産合計	57,230	12,633	42,548	+44,596	+14,681
流動負債	6,595	2,338	6,922	+4,256	△ 326
固定負債	10,533	13	6,005	+10,520	+4,528
繰延税金負債	10,198	6	5,838	+10,192	+4,360
負債合計	17,129	2,352	12,927	+14,777	+4,201
純資産	40,100	10,281	29,620	+29,819	+10,480
その他有価証券評価差額金	24,501	492	13,622	+24,009	+10,879

連結配当性向20%の方針に基づき、期末配当は37円（前期末比35円増配）を予定
年間配当は61円（同54円増配）を予定

配当の内訳				
	2019年 3 月期		2018年 3 月期	
	中間	期末	中間	期末
基 準 日	2018年 9 月30日	2019年 3 月31日	2017年 9 月30日	2018年 3 月31日
1 株当たり 配当金（半期）	24.0円	37.0円	5.0円	2.0円
1 株当たり 配当金（年間）	61.0円		7.0円	
配 当 性 向 （ 年 間 ）	20.0%		18.9%	

資本効率向上とM&A等の機動的な資本政策遂行を可能とするため、自己株式の取得を予定

実施内容

実施理由	資本効率の向上、機動的な資本政策の遂行
取得価額の総額	上限1,000百万円
取得株式の総数	上限700,000株 (発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合3.0%)
取得期間	2019年5月10日(金)～2019年8月9日(金)
取得方法	東京証券取引所における市場買付 (取引一任契約に基づく市場買付)

(参考) 2019年3月31日時点の自己株式の保有状況

- 発行済株式総数(自己株式を除く) 23,048,850株
- 自己株式数 622,995株



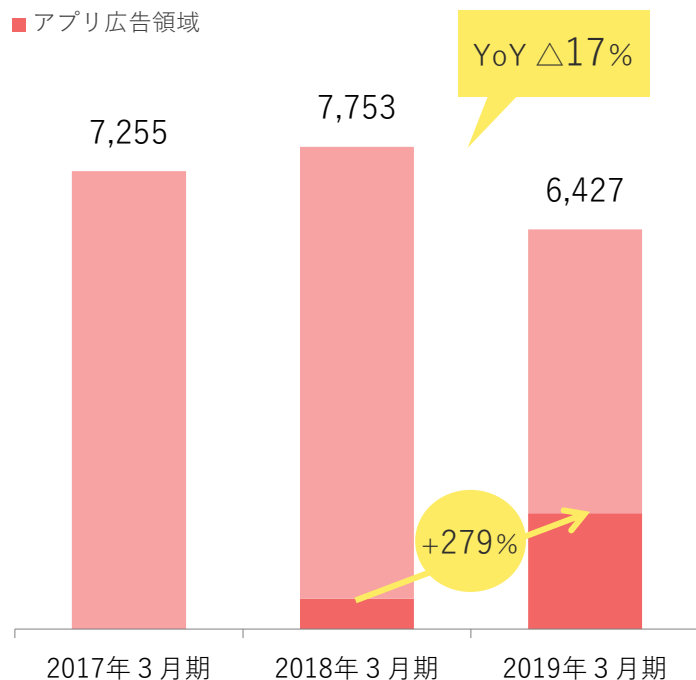
2019年 3 月期 通期事業概況

アプリ広告領域が拡大したものの、ウェブ広告領域においてグローバルプラットフォームへの
 広告予算集中の影響等により、前期比減収
 四半期推移では、ウェブ広告領域を収益性重視の運用に切り替えたことにより、前四半期比△5%

年度別売上高推移

(単位：百万円)

■ ウェブ広告領域
 ■ アプリ広告領域

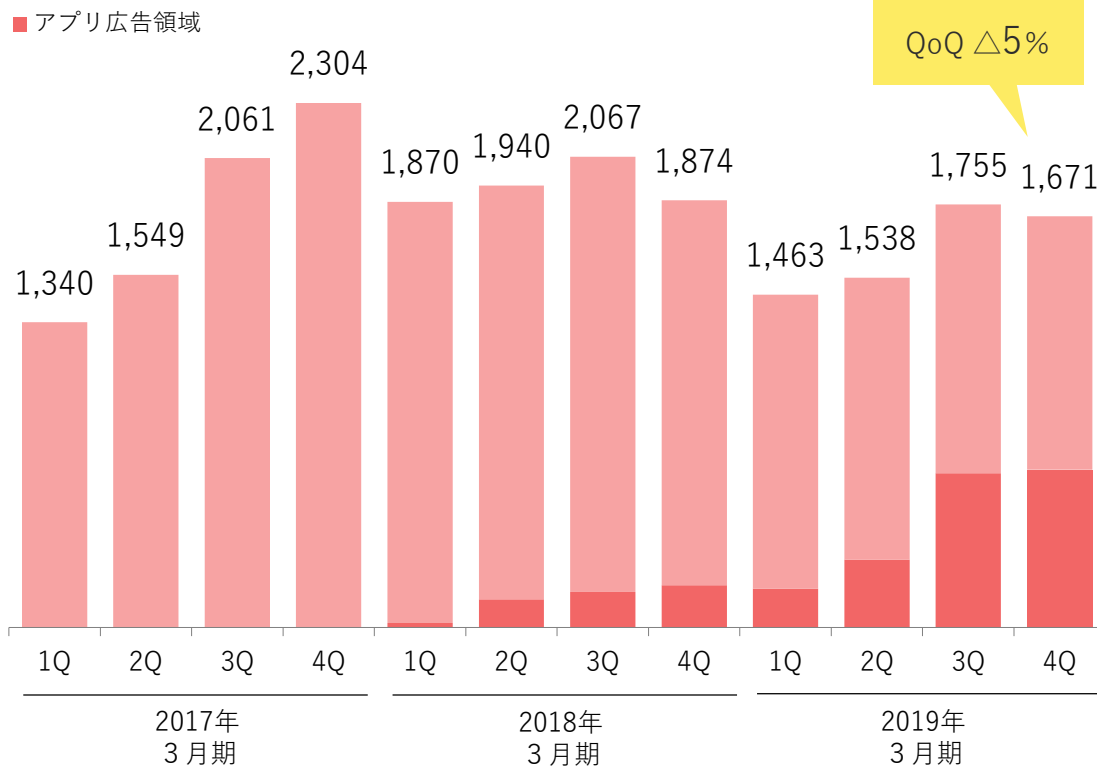


(参考)
 アプリ広告領域：「ADeals」 「VidSpot」
 ウェブ広告領域：「adstir」 「Bypass」 「HaiNa」

四半期別売上高推移

(単位：百万円)

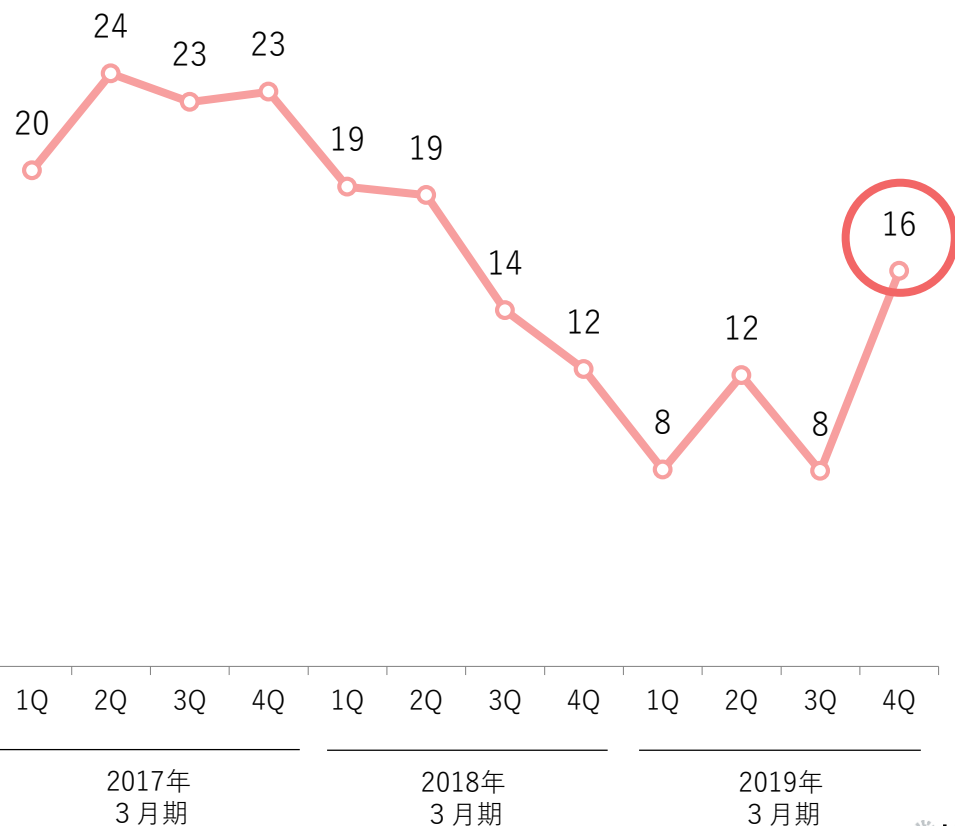
■ ウェブ広告領域
 ■ アプリ広告領域



第3四半期の売上総利益率低下の要因であったウェブ広告領域の収益性改善施策が奏功し、売上総利益率が改善、第4四半期では営業黒字に転換

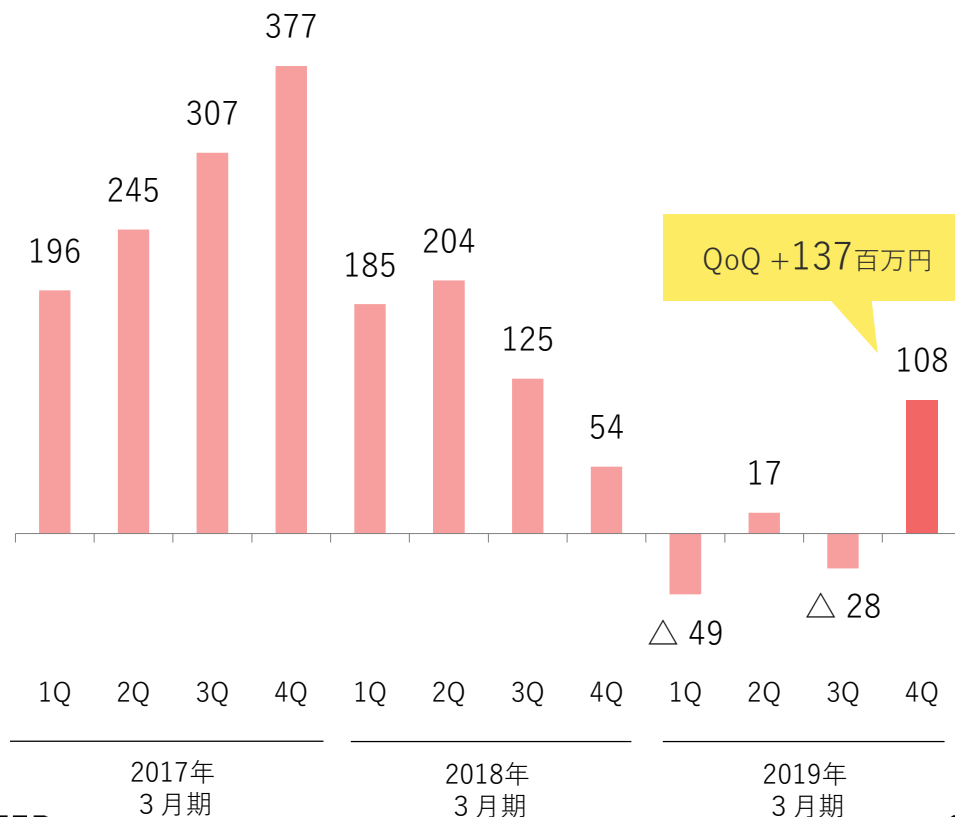
四半期別売上総利益率推移

(単位：%)

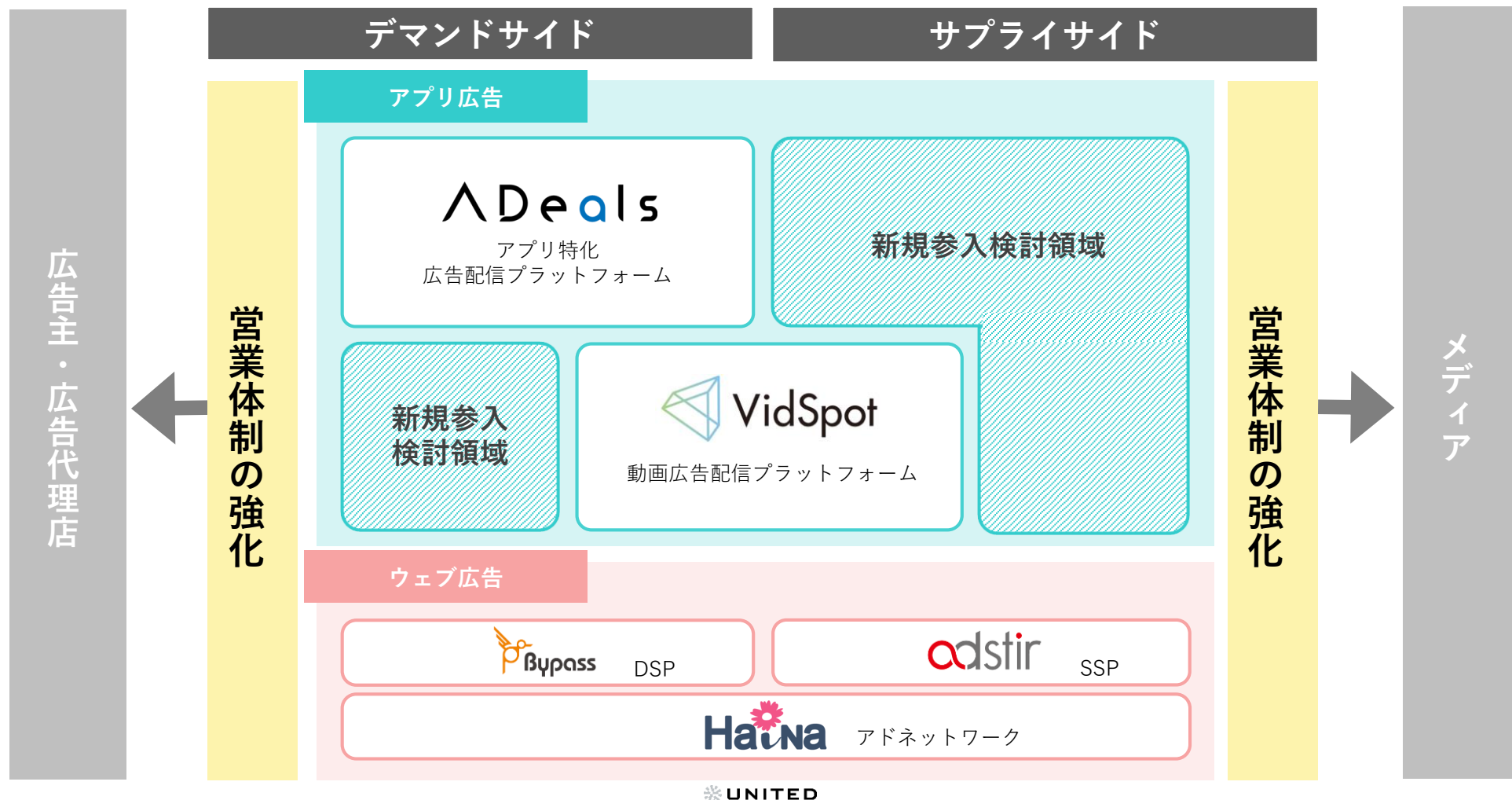


四半期別営業利益推移

(単位：百万円)



アプリ広告領域を中心に新たなプロダクト開発に注力するとともに営業体制を強化し、顧客課題の解決による収益拡大を目指す



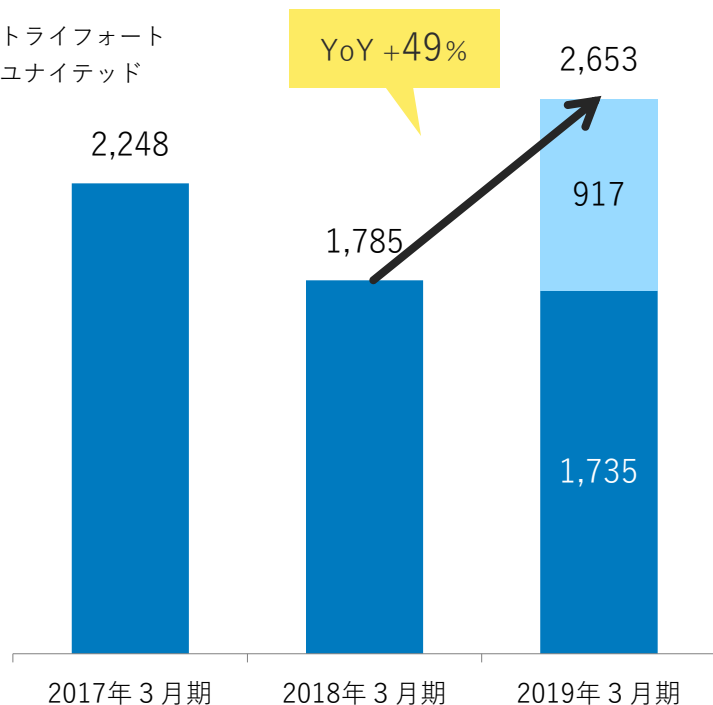
(株)トライフォート[※]の連結子会社化により、売上高は前期比+49%の成長
四半期推移では、新作ゲームタイトルの不調により前四半期比△14%

※ (株)トライフォート：2018年10月より連結子会社化

年度別売上高推移

(単位：百万円)

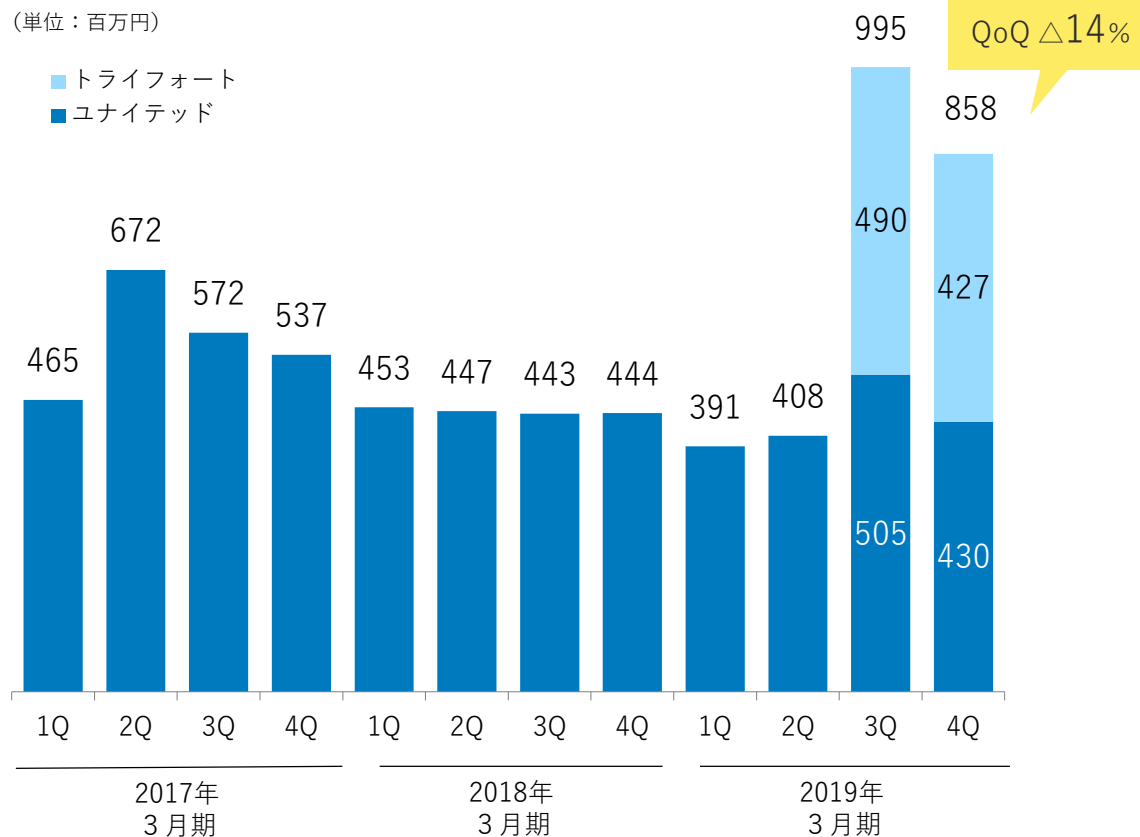
■ トライフォート
■ ユナイテッド



四半期別売上高推移

(単位：百万円)

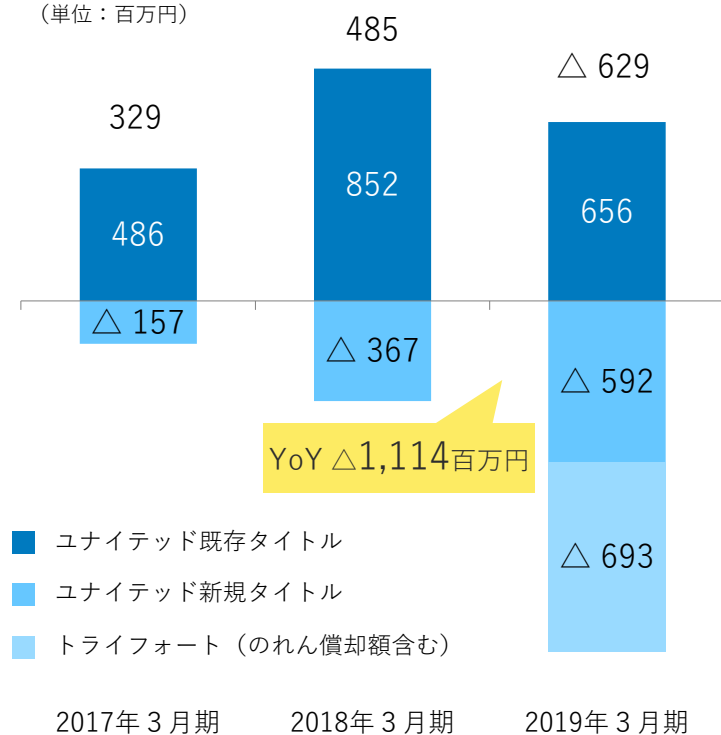
■ トライフォート
■ ユナイテッド



既存ゲームタイトルが営業利益貢献したものの、新作ゲームタイトルの不調により、前期比で減益幅が拡大

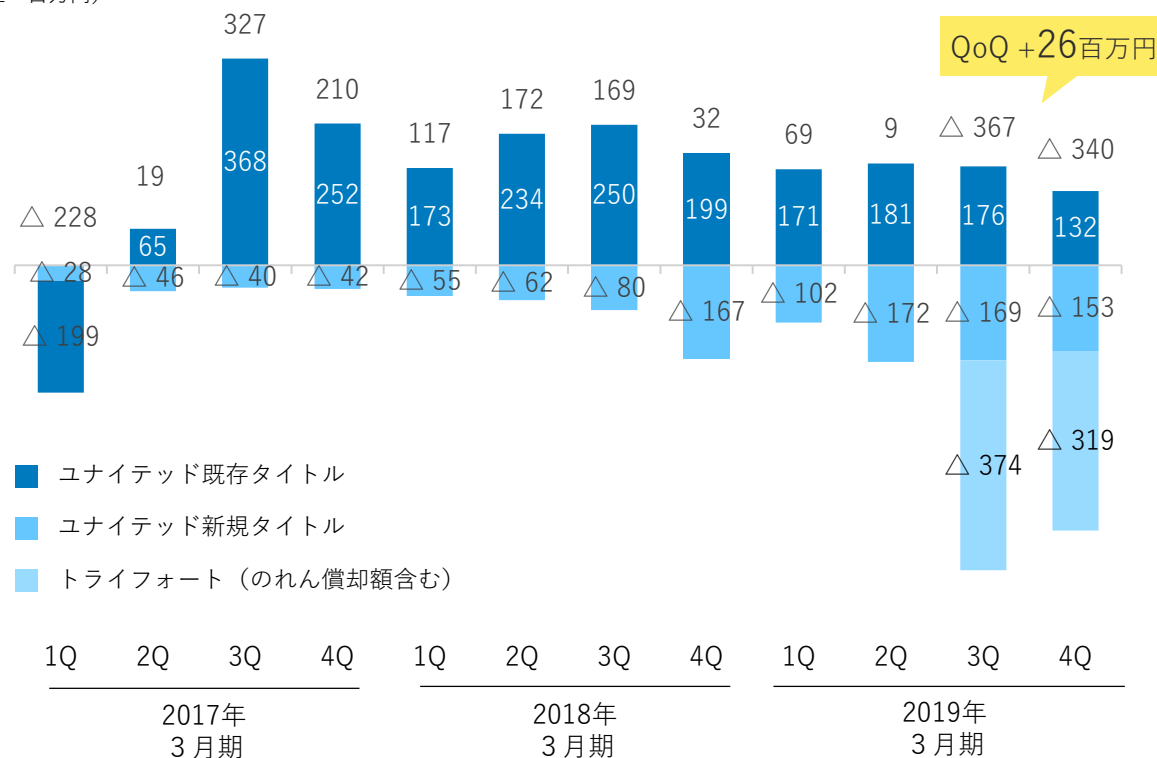
年度別営業利益推移

(単位：百万円)



四半期別営業利益推移

(単位：百万円)



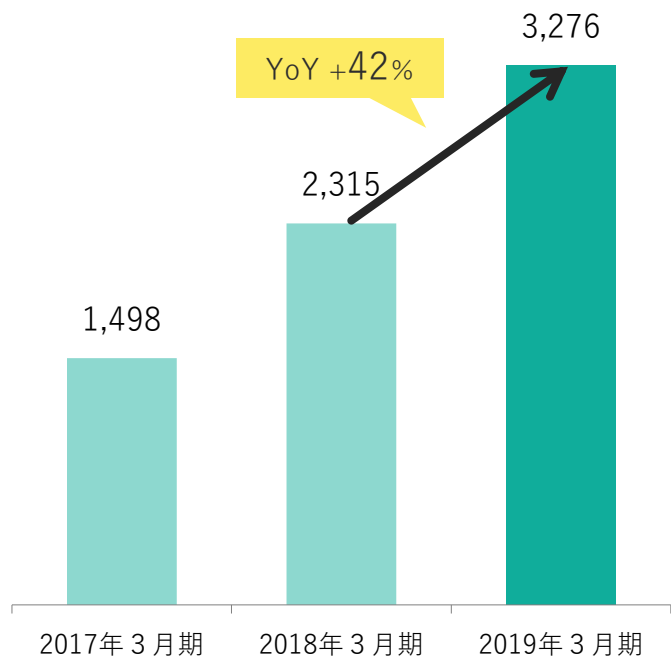
前期比では、キラメックス(株)の成長及び(株)Smarpriseの新サービス^{※2}開始に伴う増収効果により+42%の成長

※1 成長期待事業：コンテンツ事業のうちキラメックス(株)、(株)Smarprise、(株)アラン・プロダクツ、フォッグ(株)のグループ4社

※2 新サービス：「SGコイン」という「SMART GAME（スマートゲーム）」内で使用できるポイント。チャージ後ポイント還元が行われ、iTunesコードと交換可能

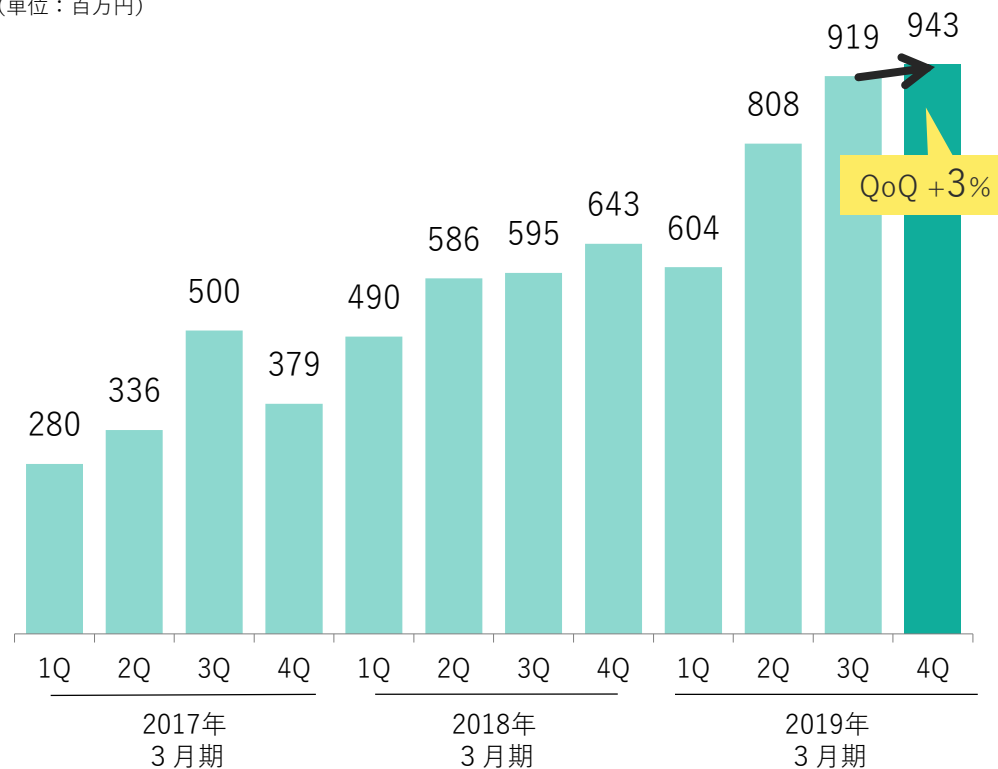
年度別売上高推移

(単位：百万円)



四半期別売上高推移

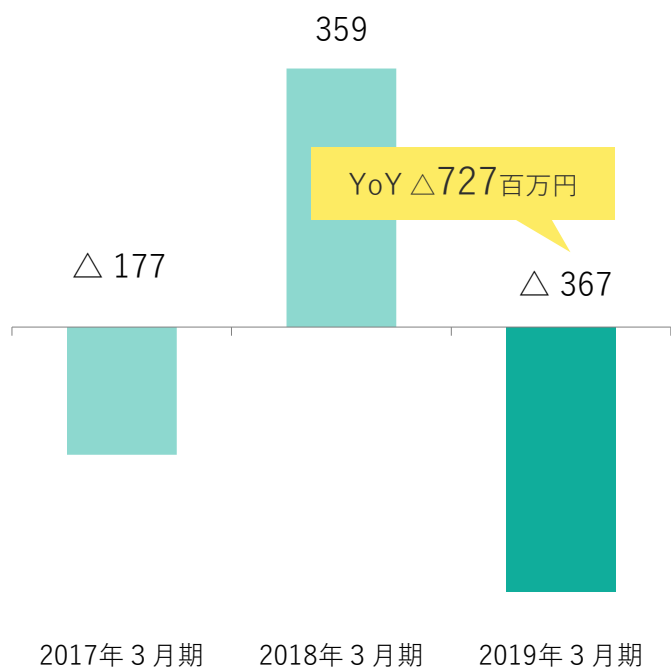
(単位：百万円)



新規事業への先行投資に加え、既存の営業利益貢献事業における外部環境の変化などにより、前期比減益で着地

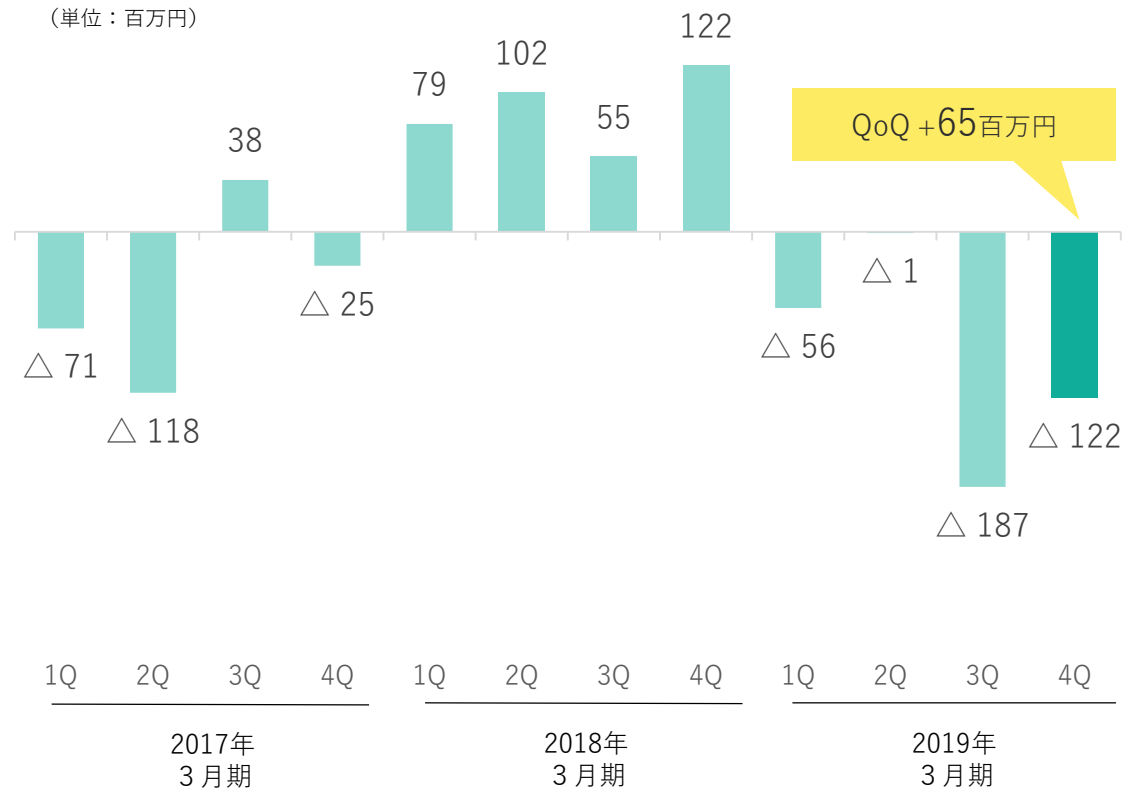
年度別営業利益推移

(単位：百万円)



四半期別営業利益推移

(単位：百万円)



各社とも、中期経営計画達成に向けた成長を視野に新規事業への積極的な投資を継続
2020年3月期は各事業の成長性を見極めつつ、事業の選択と集中を進める

成長期待事業

2019年3月期振り返り

2020年3月期方針

KIRAMEX

キラメックス(株)

- ・ 主力事業「TechAcademy」が成長
- ・ 法人向けIT研修の売上高が好調に推移

- ・ 法人向けIT研修は引き続き注力
- ・ キッズ向けプログラミング教室事業の展開を本格化

Smarpr!se

(株)スマープライズ

- ・ 新サービス「SGコイン」提供開始

- ・ 「SGコイン」の取扱量拡大
- ・ 新たな主力事業の立ち上げに注力



(株)アラン・プロダクツ

- ・ 「ヘアラボ」の事業展開に加え、複数の新規事業準備
- ・ 占いサービス「MIROR（ミラー）」を運営する(株)ラップスを買収

- ・ 「ヘアラボ」の事業展開
- ・ 新規事業早期立ち上げ
- ・ 「MIROR」への成長投資を継続



フォッグ(株)

- ・ 「CHEERZ（チアーズ）」含む周辺サービス群で売上高増加

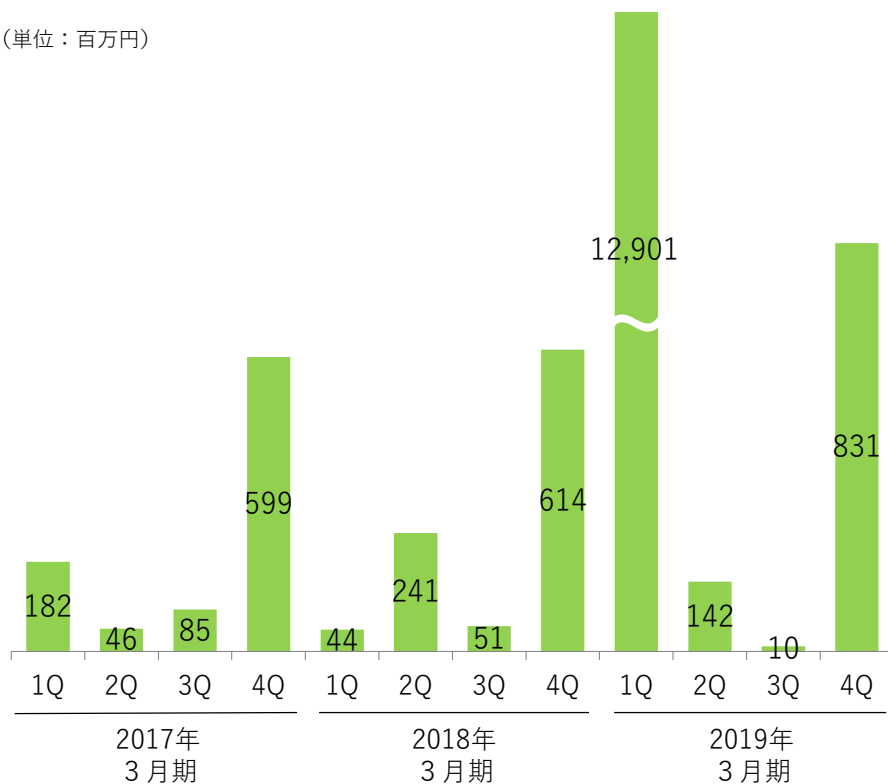
- ・ 「CHEERZ」を中心にエンターテインメントビジネス市場での大きな成長を目指す

第4四半期売上高は、(株)メルカリ株式の売却などにより831百万円
2019年3月期第4四半期末の営業投資有価証券残高※は39,190百万円

※ うち(株)メルカリ株式の営業投資有価証券残高は34,918百万円（株式保有割合は6.9%、2019年3月31日時点）

四半期別売上高推移

（単位：百万円）



営業投資有価証券残高内訳

	投資先	2019年3月末 貸借対照表計上額
上場株式	(株)メルカリ ソーシャルワイヤー(株)	約353億円
未上場株式	50社以上	約23億円
LP出資先	25本以上	約16億円

既存投資先での収益貢献を期待しつつ、中期経営計画期間中での収益貢献が期待できる
新規投資先を中心に積極的に開拓

主な投資先スタートアップ

ポストIPO

mercari SocialWire Group

ミドル～レイター

Cyber Buzz dely
WonderPlanet SMARTCAMP
visasQ translimit

シード～アーリー

SORA FAST JAPAN Jiraffe
Hacobu™
TECH FUND NEXT INNOVATION FULL KAITEN
snaq.me Payke
Spice Inc. mewcket
FIREBUG PoliPoli
Entertainment Startup

主なLP出資先ファンド

XTech Ventures East Ventures
anri SKYLAND VENTURES if IncubateFund
INFINITY VENTURES
CyberAgent Samurai Incubate Inc.
Capital WIL WORLD INNOVATION LAB
THE SEED GMO VENTURE PARTNERS
Full Commit Partners @START Space @START Fund

事業環境の変化を踏まえ、仮想通貨取引関連事業への参入準備の中止を決定
当事業準備中の子会社であるコインージ(株)の全保有株式を譲渡

業績への影響

<本株式譲渡に伴う影響額>

事業整理損：△411百万円

法人税等調整額：+ 267百万円

非支配株主に帰属する当期純損益：+ 46百万円

純損失の影響額：△ 97百万円

(参考)

コインージ(株)2019年3月期累計経常損益額：△289百万円

コインージ(株)の株式譲渡について

- 譲渡先：コインージ投資株式会社
- 譲渡日：2019年4月26日

<コインージ(株)について>

- 事業内容：仮想通貨取引関連事業
- 設立：2017年10月16日
- 資本金：960百万円



 2020年3月期について

中期経営計画達成に向け、成長性の高い事業へ投資を継続

- アドテクノロジー事業における新規プロダクト提供
- ゲーム事業における新規タイトル開発
- コンテンツ事業における新規事業への先行投資



**2020年 3 月期通期連結業績を現時点で合理的に予測することが
困難であり、業績予想については非開示
合理的な予測が可能となった段階で速やかに開示予定**

連結業績

中期経営計画の達成に向けた「集中期」として 成長性の高い事業へ積極投資

- ・ (株)メルカリ株式は50億円を目安に売却予定
- ・ 上記売却影響を除くのれん償却後営業利益黒字化を計画

アドテクノロジー 事業

成長性高いアプリ広告領域へ経営資源を積極投下し、増収増益を目指す

- ・ 売上高 : アプリ広告領域における新規プロダクト開発及び営業強化により、事業全体で当期比成長を目指す
- ・ 売上総利益: ウェブ広告領域で引き続き収益性重視の運用を行うことにより、事業全体での売上総利益率は当期第 4 四半期同水準を維持

ゲーム 事業

既存タイトルは収益を維持しつつ、新規タイトルはリスクを抑え開発

- ・ 新規タイトル開発は、オリジナル・他社IP含めてタイトルの収益性を見極めた上で、開発リソース配分も勘案し継続
- ・ (株)トライフォートは高い技術開発力を活かした受託開発に注力

コンテンツ 事業

新規事業への先行投資を継続しつつ、主力事業の成長を加速

- ・ キラメックス(株)、フォッグ(株)は主力事業のさらなる成長と周辺領域への展開に注力
- ・ (株)アラン・プロダクツ、(株)Smarpriseはビジネスモデル転換や新規事業開発に継続的に取り組む

インベストメント 事業

新規投資を継続して実行

- ・ 投資先やLP出資先ファンドのキャピタルゲインによる収益貢献を期待
- ・ 2019年 4 月に(株)メルカリ株式80万株を売却済み
(売却による営業利益影響は2,509百万円)



Appendix

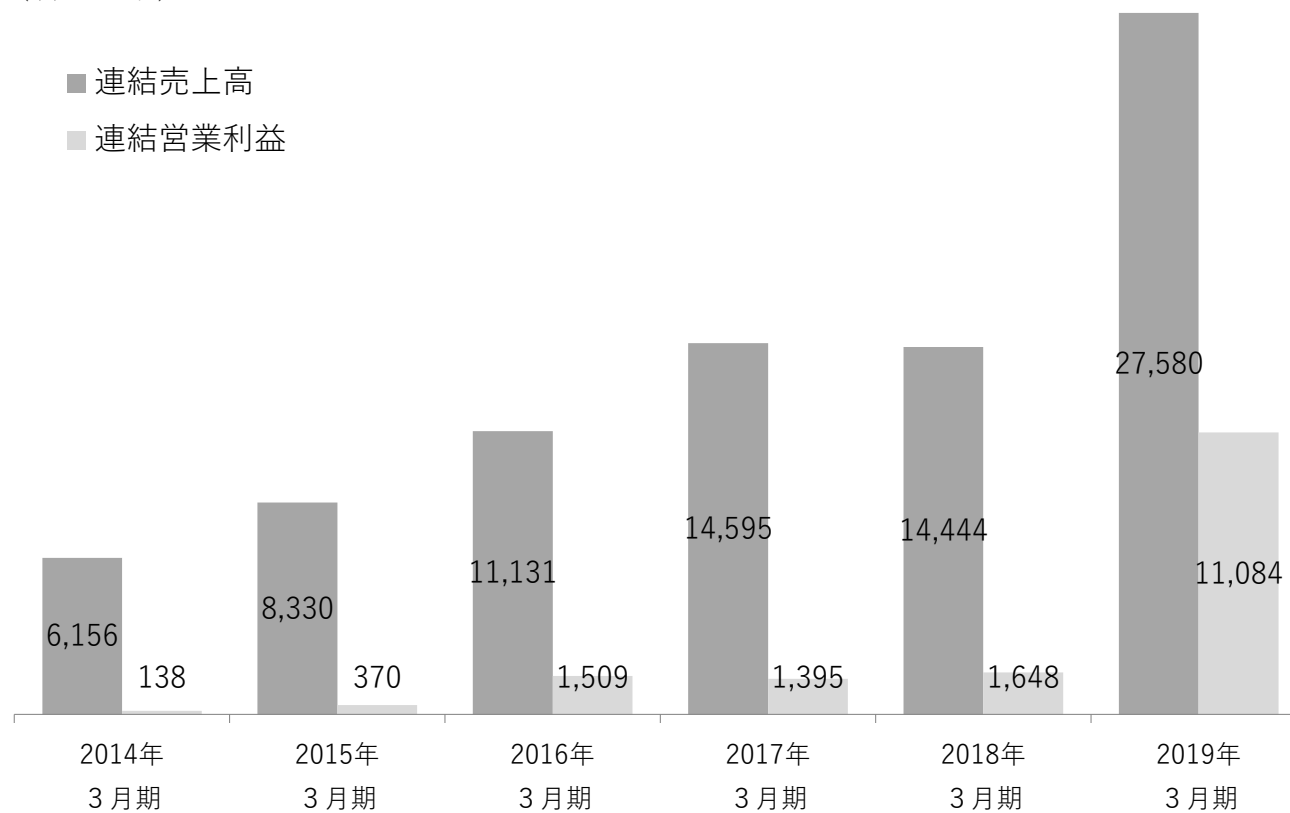
第4四半期連結損益計算書

(単位：百万円)	2019年3月期 第4四半期	2018年3月期 第4四半期	2019年3月期 第3四半期	増減	
				前年同四半期比	前四半期比
売上高	4,659	3,969	4,062	+17%	+15%
アドテクノロジー事業	1,671	1,874	1,755	△ 11%	△ 5%
ゲーム事業	858	444	995	+93%	△ 14%
コンテンツ事業	1,317	1,049	1,331	+26%	△ 1%
インベストメント事業	831	614	10	+35%	+7,519%
その他	-	-	-	-	-
売上総利益	1,299	1,433	447	△ 9%	+190%
アドテクノロジー事業	266	224	138	+19%	+92%
ゲーム事業	21	108	3	△ 80%	+470%
コンテンツ事業	308	511	306	△ 40%	+1%
インベストメント事業	712	596	10	+19%	+6,559%
その他	△ 7	△ 1	△ 2	△ 5	△ 4
販売費及び一般管理費	1,480	905	1,402	+64%	+6%
営業利益	△ 180	528	△ 955	△ 708	+774
アドテクノロジー事業	108	54	△ 28	+100%	+137
ゲーム事業	△ 340	32	△ 367	△ 372	+26
コンテンツ事業	△ 175	150	△ 154	△ 326	△ 20
インベストメント事業	586	588	△ 4	△ 0%	+590
その他	△ 80	△ 44	△ 77	△ 36	△ 2
経常利益	△ 180	520	△ 967	△ 701	+786
親会社株主に帰属する当期純利益	△ 308	264	△ 763	△ 573	+454

通期連結売上高・営業利益推移

(単位：百万円)

■ 連結売上高
■ 連結営業利益



宇宙ベンチャー企業に特化した投資を行うスペース・エースタート 1号投資事業有限責任組合への出資を決定



LP出資



出資

経営支援

出資予定先

有望な日本発宇宙スタートアップ数社への出資を予定

スペース・エースタート 1号投資事業有限責任組合の概要

- 日本発の技術やコンセプトをベースにした宇宙ベンチャー企業に特化した投資を行うファンド
- 2018年11月に組成しファンド運用規模は約50億円
- 複数の事業をCFOとして上場に導いた渡邊一正氏が2015年に設立した(株)エースタートが無限責任組合員（GP）として運営
- 「事業家系VC」として、特にIPOに向けた体制やシナリオ作りなど、出資先企業の要望に応じた支援を行うことが特徴

プロダクト

概要

アプリ広告
領域

ADeals

アプリインストール広告のROIを最適化する
統合管理プラットフォーム

VidSpot

多彩な動画広告フォーマットに対応した
モバイル動画広告プラットフォーム

Bypass

スマートフォン特化型DSP

adstir

スマートフォン特化型SSP

Haina

広告効果最適化アドネットワーク

ウェブ広告
領域

KIRAMEX

キラメックス(株)

プログラミングやアプリ開発を学べる
オンラインスクール「TechAcademy
(テックアカデミー)」を運営



(株)アラン・プロダクツ

髪の悩みと向き合う「ヘアラボ」や
ジェンダーの多様性を紹介する「パレット」
等、複数のメディア事業や新規事業を展開



Smarpr!se

(株)Smarprise

日本最大級の課金ゲームユーザー
プラットフォーム「SMART GAME」、
バーチャルタレント「富士葵」(*)の企画・運営

※ 2019年5月9日現在、チャンネル登録者数21万人以上



フォッグ(株)

女性タレントの活動支援ができるファンコ
ミュニティサービス「CHEERZ」を運営
現在5,000名以上のタレント、1,000社が利用



2019年4月より新卒社員が35名入社

